

## ウナギ産卵場生態調査

### Ⅷ. ウナギを含むカライワシ上目葉形仔魚の分類と分布特性

高橋正知・岡崎 誠・張 成年・黒木洋明(水研セ中央水研)・  
青山 潤・篠田 章(東大海洋研)・田和篤史・望岡典隆(九大院農)

【目的】産卵海域から得られたウナギ(*Anguilla japonica*)葉形仔魚の生態的特性を把握するため、同海域で得られたカライワシ上目の葉形仔魚を發育段階も考慮して種あるいはタイプレベルで分類し、それらの分布特性を比較、検討することを目的とする。

【材料と方法】2008年5月19日～6月15日(レグ1)、8月19日～9月11日(レグ2)にマリアナ諸島西方海域においてIKMT(開口面積 8.7 m<sup>2</sup>;水深約 300m からの傾斜および階段曳き)、IONESS(開口面積 1 m<sup>2</sup>;水深約 300m から 20～50m 間隔で階段曳き)および表中層トロール網(開口面積 3000 m<sup>2</sup>;水深約 300～400m からの階段曳き)によって得られた葉形仔魚 413 個体(4.3～347.0mmTL)を用いた。また個体数の多かったレグ2のIKMTサンプルについては、関係類似度  $R_{sn}$  に基づくファジイクラスター解析(品川, 1999)を用いて群集解析を試みた。

【結果】葉形仔魚はソトイワシ目、ウナギ目、フウセンウナギ目に含まれ、トカゲギス科、ウナギ科、イワアナゴ科、ウツボ科、ホラアナゴ科、ウミヘビ科、アナゴ科、ヘラアナゴ科、シギウナギ科、ノコバウナギ科、フクロウナギ科の 11 科 33 種(タイプ)以上に分類された。アナゴ科が 122 個体と最も優占し、全体の 29.5% を占めた。次いでノコバウナギ科が 26.2%、ウツボ科が 14.5%、ウナギ科が 12.1% と続いた。残り 7 科の割合は 0.5～4.1% と低く、その出現は散発的であった。群集解析の結果、採集地点は A: スルガ海山至近の南海域、B: 西マリアナ海嶺南部海域、C: 東経 136 度線の 3 群に大別され、地理的分布にも対応した。出現種は 3 種群に識別され、それらの出現は各地点群に対応した。ウナギは前葉形仔魚期と葉形仔魚期が別の種群に含まれた。發育段階の若いウナギほど A に出現する傾向が強く、レグ2の調査時期においては、A が産卵場所であったことが示唆された。またノコバウナギ科の前葉形仔魚も同じ種群に含まれたことから、両種は類似した産卵生態を持つ可能性が示された。